

あらあー福鉄の 新しいのが走ってるわ！！



●撮影／田山治

●関連記事
139ページ

☆☆活動報告☆☆

3月27日 3月例会 理事会
27日 りんりんマップWEB版完成
第10回えちぜん鉄道活性化連携協議会
30日
クルマに頼り過ぎない社会づくり(フォーラム)
4月17日 4月例会、理事会

☆☆今後の予定☆☆

4月23日(水)
福井県健康バイコロジー推進協議会 総会
5月15日(水) 5月例会、理事会
5月26日(日) ROBA総会
記念講演会「ふくいのにLRTとまちづくり」
講演：藻谷浩介氏

ゆうじんの部屋 書籍紹介

水危機 ほんとうの話

沖 大幹 新潮選書 1500円+税

「水を使うとは使えないほど汚すことである。」地域的偏在が大きく水の値段のほとんどは貯留費と取水・輸送費用となる水資源の特性を考えると、水問題は地域ごとに適切に対処する必要があり、CO2排出のように、どこで減らしても同じということはない。私にとってはほぼ知っていることが書かれているが、水問題に興味を持った一般の方の入門書として、雨、川、湖、ダム等に係わる基礎知識が網羅され、平易な言葉で解説してくれるお勧めの書である。個人的には、手段と目的を間違えず、社会の問題を解決するために水資源の専門家の果たすべき役割を常に模索されている姿勢に共感が持てる。

東海市会員 美濃部 雄人 Minobe Yujin

【追っかけレポート】福井鉄道 F1000 形の搬入から営業運転まで

田山 治

ROBA のみなさま、お久しぶりです。お元気でしたか？昨年度はほとんど月例会やら活動には参加できていなく ROBA の会員なのか分からない行方不明状態（！？）でしたが、私は生きています。

さて、福井でのビックニュースとなる福井鉄道の半世紀ぶりとなる新車、F1000 形が 3 月 12 日に武生の地に到着し、当日のうちに搬入作業を終えました。後日深夜に試運転を兼ねて機器類や走行性能チェックなどを行ない、20 日ごろから乗務員の運転習熟訓練で日中の試運転が行なわれていました。

そして 3 月 30 日（土）、試乗会として抽選による招待客を乗せて越前武生と田原町を 1 往復し、翌 3 月 31 日（日）には営業運転に就きました。

このルポでは、搬入から営業運転まで（夜間の試運転画像はありません）を撮り収めた私の下手な写真技術（？）で 5 ページ使わせて頂こうと林照さんに無理なお願いをして、掲載させていただきます。



早朝 4 時過ぎに到着した F1000 形は、夜明けを待って 8 時ごろよりクレーンによる吊り上げが開始された。作業員やギャラリーの緊張が漂う中、無事載線が完了した。

【F1000 形試運転】



3月15日ごろから開始された F1000 形の試運転は、20日ごろから日中にも行なわれるようになり、沿線市民や路面区間で目撃した多くの人が携帯カメラやデジカメで写真を撮っていた。ツイッターでも、駅ですれ違った電車の車内から撮影した写真と「新型電車が試運転していた！！」というコメントが続々と投稿されるようになり、話題になった。

【3月30日（土）】（公式試乗会）



3月30日（土）、公式の試乗会が行われ、抽選で招待された方たちがF1000形の乗り心地などを営業運転前に楽しんだ。

【3月31日（日）】（営業運転デビュー）



3月31日（日）、営業運転開始。

出発式は越前武生駅で行なわれ、多くの人が F1000 形に乗ろうと詰めかけた。愛称名は「FUKURAM（ふくらむ）」に決定し、11 時 47 分、福井駅前経由田原町行きの第一便がブラスバンドの演奏とともにホームを一路福井市内へ向け滑るように走り出した。

【番外編】桜とFUKURAM



サンドーム西～西鯖江間



神明～水落間



西山公園～西鯖江間

福井鉄道新型車両試乗会&県民フォーラムに参加して

鳥居 健

福井鉄道の新型車両 F1000 系の試乗会が先月 30 日に開催されました。デザインや愛称を県民から広く公募していたためかマスコミの取材も多く、地元紙(福井新聞、日刊県民福井)のみならず朝日新聞や産経新聞の福井版にも試乗会の記事が掲載されました。

従来の車両と比べると確かに静かで乗り心地が良く、窓も大きいので車窓の風景も存分に楽しめます。軌道区間、特に市役所前～福井駅前では我々に手を振ってくださる方も多く、注目度の高さを感じました。低床車両で高齢者や子供連れにも利用しやすいので、今まで電車に乗る機会のなかった県民が利用するきっかけになって欲しいものです。

なお、新型車両の愛称は FUKURAM に決まりました。私は愛称をエフトラム(F-TRAM)と予想して応募したのですが外れました。富山市のポートラムとセントラムの成功例が脳裏に焼きついていたので「トラムの前に2文字」の固定観念から抜け出せませんでした。「FUKUITRAM(ふくいとらむ)」の中間2文字を除く柔軟な発想をされた方にあっパれです。

試乗会終了後は、田原町から送迎バスで商工会議所に移動し、「クルマに頼り過ぎない社会づくり県民フォーラム」に参加しました。第一部のフリートークでは、ミュージシャンの向谷実さんが在りし日の東急玉川線の様子を紹介して路面電車の魅力を語られた後、現在の渋谷駅(東横線の地下5階ホーム運用開始)の構造について言及され「駅に着いても地上に出るまで5分以上かかってしまう」と、昨今の地下鉄至上主義を残念がっておられました。その後も京阪電鉄の駅発車メロディー開発秘話等の興味深いお話がありました。

第二部の座談会は、鉄道ジャーナリスト史絵.さんの司会で向谷さん、鯖江市在住の鈴木さん(公共交通利用推進研究会事務局)、ROBA 内田会長が参加して「路面電車が街・暮らしを変える」とのテーマで行なわれました。鈴木さんからは、鯖江市の誠市(毎月第二日曜日に開催)に福鉄で行くと 300 円の地域通貨がもらえる制度を紹介されました。内田会長からは、カーフリーデーの取り組みやパーク&ライドの制度を紹介された後、楽しく乗れる仕掛けの一環として「ぜひ福鉄の発車メロディーを作曲していただきたい」と向谷さんに強く要望されました。なお、当日のフォーラムの様子は、史絵.さんのブログ(下記 URL)にも詳しく紹介されています。 <http://ameblo.jp/shie-rail/entry-11501558022.html>

試乗会の翌週末(4/6～7)にも西山公園への花見を兼ねて FUKURAM に乗ろうと考えていましたが、両日とも低気圧の接近で台風並みの荒天になったため、外出を自粛し計画は中止しました。



F1000 形新型電車に 夢は膨らむ 林 博

福井に待ちに待った低床電車がやってきた、試乗会と始発電車に乗ることができ、快適で華やかな電車に、夢は膨らむ一方だ。

3月30日のF1000の試乗会に空気が出たということで、乗せていただきました。新潟トランスス関係者とも同行できたので、車両連結部のフラットな部分や、ドイツ製の頑丈な蛇腹など苦心の跡を聞かせていただきました。

ところが、始発電車運行の朝方に私の5人目の孫が誕生して、初代電太君を連れて病院へ行くことになり、この日に名前もつけられた FUKURAM 始発電車に乗っていくことにしました。すしづめ状態でしたが、それでも、貴重な3種類のチケットを手に入れることができました。

夢はさらに大きく膨らみましたが、課題はまだまだあります。降り立った公園口電停は70cm幅しかなく、孫二人を連れての乗り降りでの危険を体験し、LRT化には電停整備も含むということを痛感しました。



先月30日 福井鉄道新型電車試乗会に参加しました。この貴重な機会を提供していただきました岸本様ありがとうございます。率直な感想として 福井鉄道にファンが多いと感じました。家族連れの参加も多く 子供たちも電車の旅を楽しんでいる感じでした。沿線では カメラ構えている鉄道ファンも多数見られました。今度の電車は床がフラットで とても乗りやすかったです。また 乗ってみたいと魅力を感じました。一時間の乗車でしたが 苦痛を感じませんでした。揺れも少なく快適な旅でした。普通福井から武生は JR を使いますが 新型電車なら私福井鉄道に乗ってみるのもありの選択になります。できたら 福井から武生間一時間は長いので 昼間も急行運転して 30 分で新型電車なら最高です。今月に入り新型電車の光景を見にしますが 乗客が多いと感じました。それから私は足が不自由ですが スムーズに乗り降りできました。

玉井 秀和

福井鉄道 F1000 形新型低床電車試乗会報告

福井鉄道 F1000 形新型低床電車試乗会に参加してきましたので報告致します。私は、まず、集合場所・始発の越前武生駅ではなく北府車庫に向かい F1000 形の撮影をさせて頂きました。その後、越前武生駅へ移動。招待された人たちであふれかえる駅。やがて案内があり車内へ。F1000 形は、駅に大勢居た人たちを皆収容してしまったようだ。やはり大きい。F1000 形はあまり揺れることなく、駅をいくつも飛ばしながら快速走行。低床電車がこのように駅を飛ばして快速走行する姿は国内ではほかに例がなく、とても興味深いものでした。

そして、中心市街地へ入ると道行く人たちが振り返り、笑顔になり、写真を撮っている。とても良い光景でした。実は、私は日中の試運転が始まった日から写真を撮り始めたのですが、F1000 形が中心市街地に入ってくると街が華やぎました。明るいオレンジに光が当たると電車だけではなく街全体が明るくなるように見えます。まさに、輝かしい福井の LRT 実現の第一歩。福井の将来に大いに期待が持てる、そんな気がします。

(清水省吾)

福井鉄道新型低床電車に乗車して

岸本 雅行

3月30日の試乗会に参加しましたので乗車の感想を書かせていただきます。定刻の12時15分、ほぼ満員の招待客を乗せて電車は静かに越前武生駅のホームを離れました。VVVFインバータ制御方式独特のヒューンという心地よい発車音、都会の電車では当たり前の音ですが、福井鉄道にもようやく春が来たという感じがしました。思ったより車内も広く、静かで快適な乗り心地です。ただ、台車に空気バネを使用していないため、線路の継ぎ目を通過する時の振動が直接体に響いてくるのが少し気になりました。超低床車の構造上仕方のないことかと思いますが、出来る限り改善してほしいものです。途中駅に停車してドアが開くと、ホームと電車の床面が同じ高さということがよく分かります。車両内にクルマ椅子のスペースもあり、クルマ椅子利用者も一人で乗車可能です。このような素晴らしい車両なのに、クルマ椅子利用者が一人も招待されていなかったのは少し残念でした。沿線では子どもだけでなく大人も一緒に手を振る姿が多く見られ、まるで新線の開通式のような雰囲気でした。福井市内の軌道区間に入ると注目度がさらにアップ、中には携帯のカメラを向けながら追っかけて来る女性グループも見られました。これだけ注目されると、乗っているのが恥ずかしくなるような感じでしたが、多くの人に振り向かれながら乗車するというのも、なかなか気持ちのよいものでした。市役所前電停でスイッチバックして、さらに多くの市民の羨望の眼差しを浴びながら駅前電車通りを快走します。雑然としたレトロな商店街の狭い道路に単線の線路が伸びている様は、香港の北角（ノースポイント）あたりの街角を連想させ、そこをヨーロップスタイルの洗練された電車が走るというミスマッチがおもしろく、うまく情報発信すれば全国的な観光スポットにもなりそうです。そうこうしているうちに田原町駅に到着、約1時間の有意義なミニトリップは無事に終了しました。

今回試乗した福井鉄道F1000形（愛称…ふくらむ）は新潟トランスス製の超低床車で、富山ライトレール（ポートラム）、富山地鉄富山市内線（セントラム）、万葉線（アイトラム）と同じシリーズの車両です。しかし、これらが2両編成であるのに対し、福井鉄道F1000形は、同シリーズ初の3両編成ということで全国的に注目されています。さらに、オレンジにシルバーという斬新な車体カラーもインパクトが大きいようです。試乗会の翌日からは営業運転に入りましたが、福井県内のみならず県外からも多くの乗客が訪れており、大好評のうちにスタートを切ることができたようです。私の周囲の電車に全く興味を示さなかったような人たちでさえ、「ぜひ一度乗ってみたい」と騒いでいます。今回の導入をきっかけに、福井県民の公共交通への関心がさらに高まることを期待しています。福井県民の夢が『ふくらむ』電車として、さらに飛躍してほしいと思います。

最後に、ROBA会員のために試乗会の切符手配などでたいへんお世話になった福井鉄道の社員の皆様、本当にありがとうございました。

第 10 回えちぜん鉄道活性化連携協議会の報告

報告者：内田佳次

◆開催日時：平成 25 年 3 月 27 日 9:30～1100

◆協議会委員

福井大学教授 川上洋司、えちぜん鉄道サポート団体和田会長、ROBA 会長内田佳次、福井商工会議
所会頭代理 宮崎常務理事、えちぜん鉄道社長 見奈美 徹、福井市長 東村新一、勝山市長 山岸
正裕、あわら市長代理 北島副市長、坂井市長代理 北川副市長、永平寺町長 代理 酒井課長

◆専門委員

福井運輸支局長 牟田光良、福井県総合政策部長 東村健治

◆議事

■報告事項

平成 24 年度事業報告（見込）

平成 24 年度収支決算（見込）

■協議事項

①平成 25 年度事業計画（案）

②平成 25 年度収支予算（案）

③えちぜん鉄道公共交通活性化総合連携計画の変更について

鉄道の利便性向上のための施策整備に対する国の支援が「幹線鉄道等活性化事業としてまとめら
れたことから、駅施設整備を進めることを計画に位置付ける。具体的には、「福井鉄道への乗り入
れの検討」から「福井鉄道との相互乗入れ」に表現が変更。さらには「新駅設置の検討」「車両の
増強」という言葉が追加された。

④えちぜん鉄道 L R T 整備計画について

慢性的交通渋滞の解消、中心市街地の活性化、他の鉄道との接続による利便性向上などを目的と
して、25 年～26 年 L R T 整備計画を実施する。25 年度には福井鉄道田原町駅の整備、えち鉄は
福大前西福井、日華化学駅の低床ホーム化、26 年度には福井鉄道は田原町、浅水駅の整備、えち
鉄は田原町、ハツ島、新田塚、鷺塚針原駅の低床化、L R V の 2 編成導入。さらには乗継利便性
の向上のために運賃の割引や新たな利用促進策の実施を行う。

⑤その他（省略）

◆内田の意見◆

国土交通省の支援、福井県のリーダーシップ、沿線市町首長が声を揃えて唱える、鉄道を「生活関連
資本」と捉えた責任ある体制が固められました。L R T 整備計画として位置づけ、上記 2 ヶ年の計画が
示されました。平成 25 年度は福井都市圏の L R T 元年と位置付けてもいいのではないのでしょうか。

非常にたくましい内容です。平成 27 年 4 月にはえちぜん鉄道の L R V と福井鉄道の L R V が行き来す
る姿が登場します。その基本は今後 10 年を見通したえちぜん鉄道の活性化策であり、当然ながら 27 年
度以降も施策展開は続けられるものと確信しています。

以上



『福井のLRTとまちづくり』

講師：藻谷 浩介 (もたに こうすけ) 氏

(株)日本総合研究所 調査部 主席研究員

藻谷 浩介 氏 略歴

1988年 東京大学法学部卒業

日本開発銀行(現日本政策投資銀行)入行

1999年 日本政策投資銀行 地域企画部 参事役(以後、地域振興部 参事役などを歴任)

2012年より現職

他、『デフレの正体』など著書多数、東日本大震災復興構想会議検討部会専門委員(2011~2012)

鼎談

藻谷 浩介 氏

岩崎 正夫 氏

まちづくり福井(株) 企画・事業部長

三寺 潤 氏

福井大学研究員・ROBA理事

日時：平成25年5月26日(日) 13:30~16:00 【開場:13:00】

場所：フェニックスプラザ 2階小ホール (えちぜん鉄道・福井鉄道 田原町駅前)

お問い合わせ：0776-25-7968 **入場無料**

主催：NPO法人 ふくい路面電車とまちづくりの会(ROBA)

共催：福井鉄道福武線サポート団体等協議会

後援：国土交通省中部運輸局福井運輸支局・福井県・越前市・鯖江市・福井市

◆関連行事◆ 水彩画展『福武線のある風景』 場所:ハーモニーホール 2F

講演前に FUKURAM でどうぞ (入場無料) 日時:平成 25 年 5 月 24 日~6 月 9 日



久しぶりの富士山と清水

もう数カ月も前の話になりますが、中部地区路面電車サミットに行った際、少しの時間を利用して、清水地区のコミュニティバスと拠点間をつなぐシャトルバスに乗ってきました。(約1時間の小さな旅でした。)

まずは、ババーンと富士山！ 幾度となく富士山を眺める機会はあるけど、青空の下に見る富士の山は本当に久しぶりでした。なだらかな斜面が写った全景だともっと良かったのですが……。



続いて、コミュニティバス（まるちゃんバス）ピンク色のかわいいバスです。テレビで見ていた、まるちゃんのバスに乗れて、少しワクワクしちゃいました。「ちびまるこ」のキャラクターがバス内部にまで表れていると、もっとワクワクしたのかも…と。



最後に、JR清水駅⇄エスパルスドリームプラザ間を輸送する、無料のシャトルバスです。レトロな車内で、私の記憶では、このような感じのバスに乗ったのは初めてです。

ビニール製のクロス・鉄の肘掛、肘掛がない座席もあり、カーブでは椅子から落ちそうな感じでした。



作／漆崎 耕次

編集後記・・・編集委員より一言

内田（発行責任者）

「本年も総会の後、藻谷浩介氏を招いて記念講演会を行います。今から楽しみです。」

林(変集長)

「福鉄に乗車している女性もアテンダントなのでしょうか？」

事務局 特定非営利活動法人

ふくい路面電車とまちづくりの会(ROBA)

910-8031

福井市種池1丁目1905-3

TEL: 0776-25-7968

e-mail: roba@mbh.nifty.com

URL: <http://roba.cocolog-nifty.com/roba/home/>